

## 平成17年度(社)日本放射線技師会 放射線機器管理士部会総会報告

開催日時 平成18年10月9日(月曜日)11時00分～11時30分  
場 所 米子コンベンションセンタービッグシップ第5会場 第7会議室(6F)  
出席状況 部会員 32名、新入会員 10名、非部会員 13名

吉浦隆雄副部会長の開会宣言、中村泰彦部会長挨拶の後、宮原克樹氏を議長に選出、議事録署名人に小川正人、満園裕樹を指名し、議事に入った。本総会は、平成18年9月30日現在の機器管理士部会会員数199名に対して、32名の出席があり、放射線機器管理士部会規約の第5章第17条の2の会員定数の10分の1を満たすことから成立した。

### 第1号議案 平成17年度事業報告

#### (1) 総括

下記の平成17年度事業計画に則った活動を行った。特に、認定資格の更新制度と放射線機器管理士部会の組織・体制作りについては、最優先・最重要案件として引き続き日本放射線技師会との調整を行った。

1. 更新申請における活動実績証の様式作成
2. 機器管理データベースの構築と故障分析成
3. 放射線関連機器点検マニュアル作成
4. 都道府県放射線技師会の放射線機器管理士との連携

#### (2) 平成17年度会務報告

##### 1) 会員異動

前年度会員162名、新入会37名  
会員数(平成18年9月30日) 199名

##### 2) 平成17年度・18年度役員選出

前役員から諸澄、安田両氏が辞任。

役員公募の結果、立候補者がなかったため、スムーズな運営を図ることを目的に、新役員については福岡を中心に組織した。

部会長	中村 泰彦	福岡	九州大学病院
副部会長	吉浦 隆雄	福岡	産業医科大学病院
理事	安藤 博敏	京都	綾部ルネス病院
	神谷 靖治	福岡	九州厚生年金病院
	菊地 克彦	東京	三菱診療所
	満園 裕樹	福岡	北九州市立八幡病院
	村上 誠一	福岡	産業医科大学病院
事務局長	小川 正人	福岡	産業医科大学病院
監事	新開 英秀	福岡	九州大学病院

##### 3) 会議

平成17年10月21日 日放技との打合せ(鹿児島)  
平成17年11月11日 部会役員会議 (福岡・看護等研修センター)  
平成17年11月20日 部会役員会議 (千葉・幕張メッセ)  
平成18年2月25日 出版会との打合せ会議 (東京)  
平成18年2月25日 地方講演 (埼玉県放射線技師会・中村)  
平成18年4月4日 部会役員会議 (福岡・北九州市立八幡病院)

- 平成18年 5月19日 日放技との打合せ会議 (東京・日放技事務所)  
 平成18年 6月25日 地方講演 (長崎県放射線技師会・中村)  
 平成18年 7月 1日 地方講演 (静岡県放射線技師会・安田)  
 平成18年 9月 2日 日放技との打合せ会議 (東京・日放技事務所)

4) 公文書 (1701~1705)

- 1701 放射線機器管理士部会入会申込受理について(申込受理書)  
 1702 放射線機器管理士部会申込手続き完了について(手続き完了通知)  
 1703 平成16年度放射線機器管理士部会総会について  
 (日本放射線技師会への総会開催報告)  
 1704 平成17年度学術講演会講師依頼書  
 1705 平成17年度学術講演会講師派遣依頼(施設長)

5) 広報

- 地方技師会活動状況調査(HP)  
 平成17・18年度役員公募(HP)  
 平成16年度学術講演会(第21回放射線技師学術総合大会)  
 特別講演内容のHPへの掲載  
 『改正薬事法が求めているもの』 - 医療施設での新たな対応とは -  
 JIRA 法規・経済部会 委員長 野口 雄司 氏  
 「放射線機器管理士の活動状況調査」に関する報告ならびに技師会誌投稿  
 委託研究報告1「放射線関連機器管理データベースの構築のための研究」に関する報告  
 ならびに技師会誌投稿  
 委託研究報告2「放射線関連機器の故障分析の研究」に関する報告ならびに技師会誌投稿  
 平成17年度部会総会・学術講演会案内(HP)  
 平成17年度部会総会・学術講演会案内(コンgresブック)

**第2号議案 平成17年度収支決算報告**

(1) 会費納入状況

前年度会員 162名 会費納入者 34名 納入率 21%

新入会 37名

(2) 平成17年度収支決算報告

収入の部

大科目	中科目	小科目	予算額	決算額	増減	付記
会費収入	個人会員収入		450,000	228,000	222,000	平成16年度会費 3,000円×2名 平成17年度会費 3,000円×34名 平成18年度会費 3,000円×3名 新入会 3,000円×37名
事業収入	委託研究費		100,000	0	100,000	
	認定バッジ販売収入		20,000	6,800	13,200	800円×6個(総会時) 1,000円×2個(送料込)
	広告料収入		0	0	0	
雑収入	預金利息		0	6	6	
当期収入合計			570,000	234,806	335,206	
前年度繰越金			794,701	794,701	0	

収入合計	(A)	1,364,701	1,029,507	335,206		
支出の部						
大科目	中科目	小科目	予算額		付記	
事業費	学術・教育費		450,000	120,000	330,000	
		講演会費	150,000	120,000	30,000	学術講演会(総会開催時)講師旅費
		調査研究費	200,000	0	200,000	
		諸委員会費	100,000	0	100,000	
	出版事業費	印刷費	0	0	0	
	通信費	郵送費	62,600	0	62,600	
管理費	会議費		350,000	193,065	156,935	
		総会費	50,000	3,780	46,220	学術講演会(総会開催時)講師記念品
		会議費	100,000	21,105	78,895	
		旅費交通費	200,000	168,180	31,820	
	事務諸費		52,101	0	52,101	
		備品費	20,000	0	20,000	
		消耗品費	20,000	0	20,000	
		雑費	12,101	0	12,101	
	予備費		450,000	0	450,000	
支出合計	(B)	1,364,701	313,065	1,051,636		
収支差額	(C)(A)-(B)	0	716,442	716,430		

### 第3号議案 平成17年度監査報告

第1号議案、第2号議案、第3号議案について承認された。なお、活動状況等についての広報を充実させて欲しいとの要望があり、今後解決していくとの回答を行った。

### 第4号議案 平成18年度事業計画

認定資格の更新制度と放射線機器管理士部会の組織・体制作りについては、最優先・最重要案件として引き続き日本放射線技師会との調整を行う。

1. 更新申請における活動実績証の様式作成
2. 機器管理データベースの構築と故障分析
3. 放射線機器管理実践マニュアル作成・刊行
4. 都道府県放射線技師会の放射線機器管理士部会との連携

### 第5号議案 平成18年度予算

#### 収入の部

大科目	中科目	小科目	予算額	付記
会費収入	個人会員収入		690,000	個人会員 3,000 円 × 199 名 新入会 3,000 円 × 31 名
事業収入	委託研究費		100,000	
	認定バッジ販売収入		20,000	800 円 × 10 個(総会時) 1,000 円 × 12 個(送料込)
	広告料収入		0	

雑収入	預金利息	0	
当期収入合計		810,000	
前年度繰越金		716,442	
収入合計	(A)	1,526,442	

支出の部

大科目	中科目	小科目	予算額	付記
事業費	学術・教育費		650,000	
		講演会費	350,000	地方技師会との連携
		調査研究費	200,000	
		諸委員会費	100,000	
	出版事業費	印刷費	0	
	通信費	郵送費	62,600	
管理費	会議費		400,000	
		总会費	50,000	
		会議費	100,000	
		旅費交通費	250,000	
	事務諸費		63,842	
		備品費	20,000	
		消耗品費	20,000	
		雑費	23,842	
	予備費		350,000	
	支出合計	(B)	1,526,442	
収支差額	(C)(A)-(B)	0		

第4号議案、第5号議案について承認された。

**第6号議案 その他**

出席された会員から下記の意見を頂いたので、前向きに対応していきたい。

1. 情報公開
  - 1) 部会活動が見えない
  - 2) セミナー開催
  - 3) 学術大会でのイベント
  - 4) 会誌の出版
2. 总会委任状
3. 出席証明書の発行
4. 会費納入状況の連絡
5. 更新制度の明確化
  - 1) 実務の定義
  - 2) 保健所勤務(デスクワーク主体)の会員への対応
6. JARTと部会、地方技師会との連携のあり方

吉浦副部会長の閉会の辞で議事を終了した。

平成18年11月10日

議事録署名人 小川正人 印略  
満園裕樹 印略

## 監査報告書

社団法人日本放射線技師会 放射線機器管理士部会規約第 11 条第 4 項に基づき、平成 18 年 10 月 3 日、平成 17 年度事業および会計の収支決算について、部会長、副部会長、事務局長の立会いのもとに監査を行いましたので報告します。

### 1. 監査方法の概要

平成 17 年 10 月 1 日から平成 18 年 9 月 30 日の期間における事業ならびに会計監査のため、事業計画書、収支予算書および各事業報告書、収支決算書、議事録、文書綴り、領収書綴りの閲覧ならびに帳簿、預金通帳との照合を行った。

### 2. 監査結果

#### (1) 事業

事業計画に基づき適正に執行運営されていることを認めます。

#### (2) 会計

会計帳簿の記載は正確で、領収書等の証拠書類や会計処理は全て適正であり、平成 17 年度会計収支決算書に相違ないことを認めます。

### 3. 総評

(1) 部会設立当初から日本放射線技師会、放射線機器管理士認定者、放射線機器管理士部会、放射線機器管理士部会部会員の関係や役割が明確となっていないことや更新制度が問題となっていた現状を鑑みて、それらの問題解決に努力し積極的に組織や制度の見直しに尽力されている。

(2) 医療機器の安全管理については、日本放射線技師会、日本臨床工学技士会、日本臨床衛生検査技師会の合同で適正化を厚生労働省薬務局へ要望されている。放射線の取扱いは放射線技師が実践することを前提に、放射線機器管理士の役割を盛り込むことや診療報酬へのフィードバックなどの方策を切望する。

(3) 社団法人放射線技師会が推進する認定制度においては、次年度以降国際認定とする動きがあるが、会員不在の認定制度とならぬように切望するとともに、今後とも会員の声の届く活動に期待したい。

平成 18 年 10 月 3 日

監事 新開 英秀 (印略)